

じゅんじょに気をつけてよもう 「たんぼぼのちえ」

授業のポイント

思いや願いを豊かに表現できる子の育成を目指して

本時では説明的な文章で読み取ったことを、文型を意識させながらクイズにまとめて表現していこうと考えた。

子どもの思いや願いを高めるために、日常生活でも関心の高いクイズを表現活動として選んだ。どの子にとっても自分の思いを表出できる場とするために、本時の中で、クイズを【書くこと】また、できたクイズを声に出して【読むこと】を授業の中に取り入れることや、グループでの発表の場を設定することで、個々の思いや願いを表現できることを願った。

授業改善に向けての考察

読みの力から表現へ

- ・1年生の説明的な文章の読み取りを受けて、2年生の初めての説明文の読解である。
- ・時間的な順序を表す言葉や接続の言葉に着目して、丁寧に文を読み取る力を育てたいと考え。そのために「ワークシート」を工夫していった。
- ・はじめは、ワークシートへの記入に抵抗を示す児童も多くみられていたが、段落ごとの読みを深め、大事な言葉や文を意識させていくことで、自らサイドラインをひき自力でシートへの学習をまとめていくことができるようになっていった。
- ・ワークシートの裏面を利用して、段落ごとのクイズを書くこととした。
- ・問答形式の言葉を教えていく中で、クイズの作り方に関心を高め、自分の書いたクイズを友だちに進んで発表する姿が見られていった。
- ・また、音読にも力を入れることができるようになり、音読による個々の表現にも結びつけることができた。読みの力をしっかりとつけていくことで自信が生まれ、自ら表現したいという思いや願いを高めていくことができたのではないかと考えられる。

思いや願いを育てるための学習環境

- ・「たんぼぼ」という児童にとって身近な植物を題材にした単元である。
 - ・「校庭のたんぼぼみつけ」から学習はスタートしていった。
 - ・朝の会の二ユースでは、学校の行き帰りに見つけた「たんぼぼ」の報告が伝えられていった。
 - ・担任は図書室からたんぼぼに連する図鑑を教室に持ち込み、また「たんぼぼ」の物語を読み聞かせた。
 - ・朝読書の時間には友だちと交換しながら、「たんぼぼ」の図鑑や物語を進んで読む児童の姿が見られた。
- このように、授業時間以外でも「たんぼぼのちえ」の学習環境を意図的に整えていくことで、クイズづくりの表現の学習もひとりひとりの子にとって楽しいものとなり思いや願いが育っていった。

評価力の育成

- ・音読カードに始まって、自己評価や相互評価の場をつくってきた。
 - ・自己評価については、めあてをできるだけ授業のはじめに提示することや具体的に提示することで、評価が容易にできるようにしてきた。
- ・本時では「たんぼぼクイズをつくって、友だちに発表しよう」と設定した。グループ内での発表や全体の場での友だちの発表を真剣に聞き合い、相互の評価ができる力が育ってきていることがわかる。
- ・自己評価となると、まだまだ積み重ねは必要ではあるが、カードを使って学習の振り返りを毎時間行っていくことは、自己教育力の育成になくてはならないのではないだろうか。今後の授業づくりに継続して取り入れていきたい。